

## 医学部創設の夢

今北海道医療大学の看護福祉学部で看護師教育を中心に、歯学部や心理学部などでも内科学などを教えている。もともと教えるのが好きだったためか、仕事が研究から教育へ移行することはスムーズにできたように思う。他に藤女子大学、市立大学でも内科学や病理学を教えており、ほぼ毎日何らかの講義を受け持つことになり、準備だけで忙しい日々を送らざるを得ない。それに加えて看護学部の大学院講義を夜間に受け持つことになり、時には朝の9時から夕方5時まで当別で講義をし、電車に飛び乗って6時半から9時まで札幌サテライトキャンパスで講義という日もある。教育のみになれば少しは楽できるのではないかと思っていたのだが、完全に裏切られてしまった。

最近、心理学部の及川先生との間で「地域医療のできる医者を育てたいね」という話が盛り上がっている。研究をする暇もなくなっているという現実のせいか、「研究よりも地域医療に特化した医者がいいね」などと夢を見ている。北海道の国公立大学はすべて、当たり前ではあるが研究重視の大学であり、先端医療の推進を目標としているため、どうしても地域医療の崩壊をくい止めるための方策を積極的にとることが難しいようである。しかしながら地域医療の現状を見ていると、医師個人の努力では解決できない大きな矛盾があるように思えて仕方がない。どうしても医師派遣システムの再構築や地域医療を目指す医師の育成などの新しい方策を敢行しなければ、地域の医療体制の崩壊は疑いもなく間近に迫っているように思える。

「あなたはどのような医師を目指すのか」という拙著の中でも触れたが、地域から疲弊しきった医師たちが立ち去るようになっている。しかも、大学医局講座制の崩壊によって、立ち去る医師たちの代わりを送ることが難しくなっている。結局辺地の町村から医師たちが消え去りつつある。こうした事態に何とか方策を見出せないだろうか、ない頭を絞りながら手探りで努力を続けている。

北海道医療大学看護福祉学部  
小林正伸